



帯 広 畜 産 大 学

プレス発表資料

OBIHIRO UNIVERSITY OF AGRICULTURE AND VETERINARY MEDICINE

令和 3 年 3 月 1 日

報道関係者各位

国立大学法人帯広畜産大学

公園におけるどのような特徴が人とエゾリスの距離に影響するのか？

#### 【リリース概要】

本研究では、北海道帯広市街地の公園における調査で、餌付けの種類・公園内の緑地割合・樹木密度・遊具密度といった各公園の特徴が、人間に対するエゾリスの逃避距離（人間が近づいた際に逃げ出す距離）と関連していることを明らかにしました。特に、餌付けの頻度が高く、公園面積当たりの緑地面積・樹木面積が小さく・遊具の数が少ないほど、人間に対するエゾリスの逃避距離が短く、両者の距離が近くなりやすいことが分かりました。公園の環境が都市における人間と野生動物の距離と関連するということを解明した本研究からは、公園の環境管理を通じて人と野生動物の距離をマネジメントすることができる可能性が示唆されました。

#### 【解説】

近年、人間の生活圏に姿を現す野生動物が増えてきました。特に、都市にある公園・緑地は、一部の野生動物にとっての新たな生息地となりつつあります。野生動物を身近に観察できる環境は、都市住民にとって日常的に自然と触れ合える機会をもたらしてくれます。その一方で、人と野生動物の距離が縮まることは、野生動物の害獣化や感染症の伝搬といったリスクを高めることにも繋がってしまいます。都市部では、このような両者の軋轢が発生した場合でも、野生動物を捕獲・捕殺することは簡単ではありません。そのため都市では、いかにして人と野生動物が適切な距離を保つことで、両者の軋轢を未然に回避しつつ共存することができるかが重要な課題になっています。

今回私たちは、北海道帯広市内の 12 か所の公園に生息するエゾリスに着目して、人間が近づいた際にエゾリスが逃げ出した時の両者の距離（Flight initiation distance: FID と Vertical escape distance: VED）を計測することで、公園のどのような特徴がエゾリスの

FID・VED に影響するのかを調べました。エゾリスとの距離に関係する可能性がある様々な公園の環境を解析するために、公園内の緑地割合、樹木密度、遊具密度、歩道の面積、公園周囲の緑地割合を用いました。また、公園を利用する人の行動にも着目して、30 分間に公園を利用する人の数、餌付けの仕方(餌付け無、不定期な餌付け、エサ台を用いた定期的な餌付け)、公園周辺の人口との関係性も調べました。

解析の結果、人間とエゾリスの距離に、餌付けの仕方、樹木密度、遊具密度、公園内の緑地割合が強く関連する可能性が高いことが分かりました。特に、日常的に餌付けが行われている、樹木の密度が低い、遊具の密度が低い、緑地割合が低いといった特徴を持つ公園ほど、人間がエゾリスに近づきやすいことが分かりました。今回の結果は、障害物の密度や見晴らしが公園ごとに異なることで、エゾリスの警戒心が異なり公園間の人間とエゾリスの距離の違いが生じていることを示しています。また、定期的な餌付けが人馴れを促進して、両者の距離を縮めることに繋がっている可能性も示しています。

都市の場合、餌付け行為を禁止したり、それを市民の方に徹底してもらうことは簡単ではありません。その中でこの研究は、公園の設計や再整備によって人と野生動物の距離をマネジメントできる可能性を示したという点に特徴があります。今後、人間と野生動物の距離のコントロールが必要になった場合、上記の環境要因を管理することが効果的な手法になるかもしれません。

#### 【発表雑誌】

Urban Forestry & Urban Greening, volume 58, article number 126952 (published date March 2021)

論文 URL:

<https://www.sciencedirect.com/science/article/abs/pii/S161886672030769X#:~:text=Park%20characteristics%20are%20key%20factors%20controlling%20human%2Dwildlife%20distances.&text=VED%20was%20positively%20influenced%20by,increased%20feeding%20intensity%20decreased%20VED.>

DOI: 10.1016/j.ufug.2020.126952



公園の遊具とエゾリス



木の上で人間を観察するエゾリス

【著者と所属】

内田健太：カリフォルニア大学ロサンゼルス校（当時：北海道大学博士後期課程）

山崎嵩拓：東京大学 特任助教

大久保祐作：北海道大学 研究員

柳川久：帯広畜産大学 教授

【連絡先】

帯広畜産大学 環境農学研究部門

教授 柳川 久

E-mail: yanagawa@obihiro.ac.jp